



まちのシンボルといえば、きんこい。

「のんしこら」とは：

長洲町に古くから伝わる嫁入り唄に出てくる囃し言葉。見知らぬ土地へと旅立つ花嫁に「荒波を越えて行け」と励ます想いが込められたこの地域特有の言葉です。平成30年3月に、まちの面白そうなヒト・モノ・コトをいろんな人に伝えたい、応援したい！そんな想いを込めた冊子に「のんしこら」という名前を付け発刊しました。今号から、「広報ながす」にも不定期で登場することになりました。まちの面白そうなヒト・モノ・コトのいまをお伝えします。詳しくはwww.nonshikora.comまで。



金魚のまちあそびメンバーと、応援に駆けつけてくれた うちちゃん(金魚小売店店主)

まちの若いもんが考える
金魚を通じた
まちづくり

金魚のまちだからできることって
思い出になるような体験って
金魚をもっと身近に感じてもらうには？
まちの若いもんが、
金魚を通してまちの魅力について
語り、考えを深めます。
みんなで頭をひねっていると、
宝石の原石みたいなアイデアが
あちこちから掘り起こされてきます。

集まってくれた人【金魚のまちあそび】
長洲町在住の10代20代の有志で結成されている「金魚のまちあそび」のメンバー。
まちの将来を担う若い世代に金魚の館について意見を聞き、どうしたらもっと良い場になるかをみんなで話し合いました。メンバーの中には養魚場の後継者もいることから、金魚の育て方や意外と知らない金魚の生態についての話題で盛り上がりします。



長洲町の観光の拠点となる「金魚と鯉の郷広場」、通称「きんこい」。
週末、広場は多くの家族連れで賑わう人気のスポットです。今回の議題は、その広場の中にある「金魚の館」。毎年イベントも多く開催され、観光客も増加傾向。しかし、町内外のお客様の声として、評判も賛否両論あります。
そこでまちの若いもん、「金魚のまちあそび」のメンバーに「金魚の館」の新たな活用について考えてもらいました。

金魚の館の課題点

- ・金魚の分かりやすい説明が少ない
- ・金魚の産地なのにそのストーリーを感じない
- ・いろんなものがあって楽しいけど、ここがどういう施設なのかわかりにくい
- ・どこに行ったら金魚が買えるのかわかりにくい
- ・おしゃれじゃない。どこかガランとしている

金魚の館って？

平成24年5月、リニューアルオープン。金魚と鯉のまち“長洲町”を代表する町のシンボル施設。館内には、まち特産の各種金魚を大型の水槽で展示。多目的室、喫茶コーナーのほか、LED 導光板を使った色鮮やかな写真を展示した情報コーナーやキッズコーナーも完備。週末はイベントも多く開催され、町民も集い、観光客も多く訪れるまちの中核施設です。

*養魚場の名物お母さんや
金魚マイスターさんなど

館内に
金魚のプロを呼び、
お客さんに
金魚のことを
色々説明して
もらいたい!



ちなみに、
この2人も金魚のプロ

まちに遊びに
来てもらおう
きっかけの場
金魚の館でやってみたいこと



駅から金魚の館への道を歩く
お散歩マップを作って、
「金魚ロード」を金魚の館まで
つなげてみたい!

酒井



館内でARのアプリか、
プロジェクトシンマッピングを
試してみたい
スマホでかざして情報が出る
システムを卒業制作で試したい!

松岡



新たな金魚すくいの
水槽を提案したい!

元村

まちの若いもんが、
金魚の館の新たな活用を
考えてはじめています。
のんしこらも総力取材、
今後の動きも注目!



金魚のまちあそびメンバーも参加!

金魚粘土彫刻、 金魚イラストなど ワークショップ 開催予定

ことしも8月~スタート!

海辺の金魚のまち事業

昨年からスタートした、まちの人とよその人が一緒にまちづくりに取り組む「海辺の金魚のまち事業」。昨年は金魚を活用した参加型の様々なワークショップを行いました。ことしも、10月に開催される「金魚サミット(*)」に向けて、楽しい取り組みを企画中です。ことしも8月~ワークショップを開催予定。金魚のまちあそびメンバーもお手伝いで参加します。皆さんの参加をお待ちしています。詳細が決定したら長洲町ホームページでお知らせします。

* こちらも、みんなで盛り上げよう!

全国から金魚に関わる人、金魚好きがやってくる!
「未来へ輝け!金魚サミット in ながす」~金魚を通じたまちづくり~
日時/平成30年10月20日(土) 午後1時30分~4時30分(予定)
場所/ながす未来館 文化ホール



館の統一感が必要。
水槽も統一感を出して
オシャレにみせる工夫も
松岡友佳子(大学生)

情報発信をすることで
町民と外部の人の
出会いの場に



長洲町には養魚場が
たくさんあるので
各養魚場の自慢の
金魚も必要なのは?
酒井麻衣(高等生)



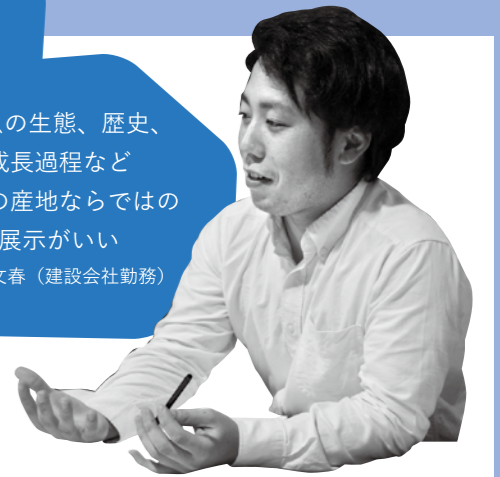
横で見栄えがする
金魚もいれば、
上見がいい金魚もいる。
桶だと金魚の飼育レベルを
上げる必要も。
金魚に負荷がかからない方法で、
水槽にインパクトを持たせる
方法があるかも
浦田智和(金魚小売店店主)

金魚のまちをどう伝えよう?!

金魚の館をどう変える!?

何をみせたいかが
すごく大事!

金魚の生態、歴史、
成長過程など
金魚の産地ならではの
展示がいい
元村文春(建設会社勤務)



金魚だけではなく
他の長洲の名物も
紹介しては?
中島終風(養魚業)



まちに来る意味を
もたせたい!
芳司奈々(大学生)



高齢者と
子どもの目線を気をつける。
バリアフリーを取り入れて、
なるべく段差を減らす
馬場聖奈(看護学生)



金魚の産地ならではの展示って

取材当日、閉館後の金魚の館。まちの若い人たちが中心となって、現状の課題や観光につなげるにはどんな展示をしたら良いかなど知恵を出し合っていました。今回の会議には、金魚のまちあそびのメンバーとまちの養魚組合にも加入し、まちで金魚屋さんを営む浦田さん(通称うらちゃん)も緊急参戦。金魚の生態や養魚の視点も教えてくれています。「金魚をどうみせたらいいか?」「まちで金魚を作ってるからこそできる紹介の仕方は?」「金魚の生産者の思いが伝わる展示って何だろう」とみんなの意見が自由に飛び交います。

何をみせたいかがすごく大事

はじめは、ターゲット設定や観光目線で必要なことが話の中心でしたが、意見を出し合っていると自然と話題は自分たちのまちの何を知ってもらいたいかが、どんなところを知らせたいかに移っていきます。「人をひきつける仕掛けはとも大切だけど、金魚をすごく大切に育ててきたまちなんだなということが伝わるみせ方にしたら?」「金魚以外にもまちの特色はあるよね?」「こんな意見も出はじめてます。会議のメンバーはまちのシンボルから何を発信するかを考えるうちに、だんだんとこのまちの魅力についても深掘りしだした様子。さて、まちのみんなが考えるシンボルは、今後どんな風に進化をしていくのか…。今後も引き続き取材を進めていきますので、みなさんどうぞお楽しみに。